

各ワーキング 令和6年度運営方針

I 学齢期の福祉教育を考えるワーキング

1 目的

教育機関と福祉機関が協働で進める障害理解教育の教育内容，教育手法を検討することにより，調布市における障害理解（多様性を認め合う社会の実現）の発展を目指す。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

- ・調布市内の小・中学校に実施した調査結果をもとにヒアリング調査を行い，より深く福祉教育に対する教育現場の課題を具体化する。
- ・福祉教育の中で障害理解教育を実施する目的や意義，教育内容，教育方法について検討する。
- ・教育と福祉が協働で行う障害理解教育の運営方法について検討する。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長	谷内 孝行	（桜美林大学 健康福祉学群 准教授）
	高江洲 幸男	（当事者）
	佐々木 翼	（当事者）
	樋川 宣登志	（調布市立第一小学校 校長）
	原田 勝	（調布市教育委員会指導室 副主幹）
	毛利 勝	（特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会）
	田村 敦史	（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター）
	大光 加奈子	（社会福祉法人調布市社会福祉協議会ドルチェ）
	吉野 強	（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう）

4 事務局

地域生活支援センター希望ヶ丘
調布市障害福祉課

5 令和6年度のワーキングにおける成果目標

- ・教育機関に対するヒアリング調査を実施，障害理解教育の現状をより具体的に把握する。
- ・「障害の社会モデル」を踏まえた障害理解教育の教育目標，教育内容，教育方法について検討する。

II 医療と福祉の相互理解についてのワーキング

1 目的

令和4年度に行った「障がい当事者及び家族と医療機関それぞれの現状と課題を把握するためのアンケート」の結果、回答者の8割がかかりつけ医を持っており、医療機関に対する評価が高かったが、2割の方は病状の説明や医師からの説明が理解できない等受診への困難さを感じていたことが明らかになった。

今年度のワーキングでは、医療機関側の障がい理解の姿勢が、障害のある方の安心感へとつながるため、障がい特性や配慮のポイントを記載したパンフレットを作成と障がい当事者の健康診断についての課題が多いため、あわせて協議をすすめていく。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

当事者・家族並びに医療従事者向けアンケート結果を踏まえて、当事者の受診について受け入れ促進要件や阻害要件を明らかにしていき、解決方法等について検討していく。

3 ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長 山本 雅章 (社会福祉法人調布市社会福祉事業団 業務執行理事)
荒井 敏 (公益社団法人調布市医師会 副会長)
西田 伸一 (医療法人社団梟社会 西田医院 理事長)
伊藤 文子 (一般社団法人子どもプライマリケアサポートかしの木 代表理事)
進藤 美左 (特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会 会長)
富澤 敏幸 (調布市身体障害者福祉協会 副会長)
愛沢 法子 (調布市視覚障害者福祉協会)
井村 茂樹 (調布市聴覚障害者協会 会長)
江頭 由香 (調布市精神障害者家族会かささぎ会 会長)
秋元 妙美 (CILちょうふ 代表)
栗城 耕平 (地域生活支援センター希望ヶ丘 施設長)
円館 玲子 (調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう 施設長)

4 事務局

相談支援事業所ドルチェ
調布市障害福祉課

5 令和6年度のワーキングにおける成果目標

- ・ 障害当事者の医療アクセスへの促進として、医療機関の方への障害理解を促進するための医療アクセスに向けてのパンフレットを作成していく。
- ・ 医療アクセスへの課題として病気の早期発見や未然に防ぐ健康診断を受けられるように健康診断受診時の課題解決の方法や配慮点等を協議する。

Ⅲ 福祉にフィットしない方たちの次の選択肢を考えるワーキング

1 目的

既存の福祉サービスに合わず行き場がなく安心できる居場所がない障害のある方を対象に、地域での支援の在り方や新たな地域資源について協議し、アイデアを創出する。

障害特性、当事者本人の意向、触法など様々な理由で就労継続B型など福祉的就労が合わず企業就労も難しいような、いわゆる狭間の障害当事者を対象に日中活動等の次の選択肢を検討する。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

昨年度まで学び、検討してきたことをふまえ、調布市でできる「就労体験・生活体験の場」について協議の上実践する。また、新たに事業を開始した「ワークライフカレッジすとおく」の取り組みを確認する。これまでのワーキングと実践の振り返りを行い、体験を重ねることで福祉にフィットしない方たちの次の選択肢となり得るような「居場所」について検討する。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長	丸山 晃	（立教大学 コミュニティ福祉研究所 研究員）
	佐藤 祐香	（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 こころの健康支援センター）
	和泉 怜実	（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 調布市子ども・若者総合支援事業 ここあ）
	矢辺 良子	（調布狛江地区保護司会 理事）
	雨下 美香	（特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会）
	大澤 宏章	（特定非営利活動法人羽ばたく会 めじろ作業所 施設長）
	伊藤 巧	（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 調布市知的障害者援護施設ワークライフカレッジすとおく 主任）

4 事務局

調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう
調布市障害福祉課

5 令和6年度のワーキングにおける成果目標

既存の福祉サービスに合わず、安心できる居場所がない障害のある方に不足している体験の場について検討する。市内の様々な地域資源とマッチングして気軽に就労・生活技術の体験ができる場所のモデルを創設する。体験を積み重ねることで居場所の一つとなる可能性についても検討する。

IV サービスのあり方検討会

1 目的

市内の特定相談支援事業所の相談支援専門員は、権利擁護の視点を大切にし、個別支援の実践とともに社会環境の調整を行い、利用者の意思を決定するための支援をするとともにそのニーズをアセスメントし代弁する役割がある。

この連絡会は相談支援専門員のケアマネジメント能力の向上と均質化、調布市におけるサービスの支給決定の考え方の共有、情報交換等を図り、ひとりひとりの尊厳のある暮らしが満たされる社会を構築することをめざし、よって障害者福祉の増進に資することを目的とする。

2 出席者（開設順）

調布市内の指定特定相談支援事業所（12事業所）の相談支援専門員

- (1) 銀河ケアサービス
- (2) 地域生活支援センター希望ヶ丘
- (3) 相談支援事業所ドルチェ
- (4) ちょうふだぞう
- (5) 調布市福祉健康部障害福祉課
- (6) 調布市子ども発達センター相談支援事業所
- (7) 障害者自立相談支援協会
- (8) 調布市こころの健康支援センター
- (9) 合同会社マーレ相談支援事務所
- (10) シエル相談支援センター
- (11) KIZUNA 相談支援センター調布
- (12) ポコポコ・ホッピング神代団地

3 実施計画

- ・今年度は、全6回を予定している。
- ・第2回目と第5回目は、地域生活支援拠点会議を併せて開催する。
- ・「地域体制強化共同支援加算」を算定した事業所があれば報告をしてもらい、地域課題について共有を図る。
- ・昨年度に引き続き、他職種も交えた事例検討や制度の学習を行い、相談支援専門員と他職種との顔が見える連携の促進を図る。